

『留学生30万人計画』

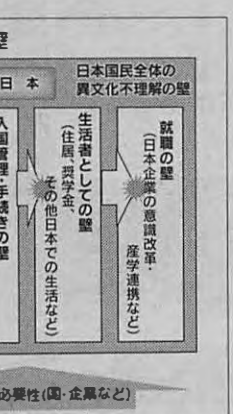
12年後までに30万人

4月18日に発表された中教審答申「教育振興基本計画について」では、2020年までに30万人の留学生受け入れをめざした「留学生30万人計画」の策定が明示された。これを受けて、中教審大学分科会留学生特別委員会では、30万人受け入れのための具体的方策を打ち出しているが、いささか総花的である感は否めない。これまで留学生の問題について向き合ってきた日本。今、日本の高等教育機関が果たすべきことは何か――。

国際化を支える大学の役割

日本に来る留学生数は、2007年5月現在で約12万人。留学生(日本)の高等教育機関に在籍する外国人学生(日本人学生に対する割合はわずかに3.3%)、イギリス、オーストラリアの留学生の割合は約25%、ドイツ、フランスなどは10%以上

で、日本は世界的に見ても非常に少ない。この割合を、欧米諸国に引き上げ、日本の高等教育の国際化を図ることが本計画の主目的とされている。横田雅弘・明治大学教授が中心となって行った「留学生交流の将来予測に関する調査研究」によると、2025年に留学生は32万人に達すると



立命館アジア太平洋大りも減らず、この地域から2601名、学生も留学(2007年11月時点)のうち、全学生に占める割合は、リテイでは46.2%と非常に多い。と。その多くが、韓国・中国、タイなどアジアの学生で、は特別な各国の現職公務員で、自国は特別な国の幹部候補の国費留学、は、どの学生もいる。直接現地のトで学べる環境

30万人計画の背景と未来

「留学生交流の将来予測に関する調査研究」
研究代表 横田雅弘・明治大学教授

わが国の留学に対する期待は、2005年に日本の学生の質をも向上させるべく、諸外国に比べ30万人という予測を立てていこう。非常に遅れており、これたわけですが、日本の体までごく一部の人がしか制が急速に変わっていく認識されていなかった。2020年、30万人達成という目標も可能ではないかと、30万人と目標を掲げている以上、政府からの予算投入は不可欠です。すべてを見通した構想実現に向けて、留学に関する議論が盛り上がる環境が、最大の進捗だと考えます。

カリキュラムを国際標準に

国際教養大学



国際教養大学 中嶋 嶺雄学長

秋田空港のほど近くに結ぶカリキュラムに位置する国際教養大学は、世界75大学(2008年4月現在)の大学と協定を結び、交換留学生を年間100人ほど受け入れている。授業はすべて英語で行われ、春学期と秋学期のセメスター制を採用している。半年間の1セメスターで1科目3単位が完

人模 900規

キャンパス寮新設

早稲

早稲田大学は2011年、膨大な学生数を抱える学の大規模のキャンパス寮を、中野区の警察大学校跡地に設置する。大学上の正規学生のうち、約3分の2は修士・博士課程の学生だ。短期の滞在では、留学生同士が異文化交流できる環境を構想中だ。探すのは非常に手間がかかる。現在は、学生は日本に11月時点。都心に位置して、生活サポートが、新設の寮日本では、留学生のセンターの負担は大幅に軽減される。また、留学生の大では、生活サポートが、日本の大提供など



早稲田大学 留学センター所長 白木三秀氏

「留学生の大では、生活サポートが、日本の大提供など